



柳川さげもん

❖ 後世に残したい柳川さげもん ❖

柳川さげもんの今昔

◆◆◆ はじまり ◆◆◆

柳川さげもんは、江戸時代より柳川地方に伝わる吊るし飾りです。その起源は、柳川藩の奥女中が着物や布団の端切れで縫い繕った琴爪入れなどの袋物とされています。その手業が彼女らの里帰りを機に町屋に伝わり、いつしかその袋物を吊るして楽しむようになりました。

そこから柳川では女の子が誕生すると、その子の幸せや無病息災、良縁を願って祖母や母親、親戚や友人がさまざまな縁起物を縫い繕い、さげもんを贈る風習が広まっていきました。裕福な家庭では、雛壇を豪華に引き立てるさげもんを部屋中に飾り、客人を招いて初節句を祝いました。また、雛壇を用意できない家庭でも、手元にある端切れを縫い合わせ、心を込めたお祝いとしました。

◆◆◆ とりくみ ◆◆◆

昭和の戦争によって一時は消えかけた柳川さげもんの伝承文化を守ろうと、柳川市では平成7年より「柳川雛祭りさげもんめぐり」と銘打ち、柳川さげもんの一般公開を始めました。さらに平成25年、古くから伝わる伝承の型を後世に残すため、柳川雛祭り実行委員会により「柳川伝承さげもん規格」が定められました。

母から娘へ、娘から孫へ。時代を超えて受け継がれてきた柳川独自の伝統美は、今も大切に継承されています。



現代家庭のさげもん飾り (2022年)



1900年頃 (古文書館所蔵/綿貫家文書より)

袋物に込められた意味

柳川さげもんに用いられる

袋物は全部で30種類。

そのすべてに女の子の健やかな成長を願う特別な意味が込められています。

蟬



泣く子は育つ。
土の中に何年もいて
辛抱の象徴

鼠



金運・子たくさん

蝶



サナギから蝶へ。
きれいに着飾らせて
嫁に出したい親心

兎



おとなしく
愛らしくも雪山を
元気に遊びまわる

猿



子どもを
大事にする。
元気に遊びまわる

鳩



神の使い。
幸せと
平和の象徴

ひよこ



可愛らしさ、
あどけなさ

雄鶏・雌鶏



朝、早起きで、
つがいで仲良く
卵を温め育てる

鶴・亀



長寿の象徴

唐辛子



娘に悪い虫が
つかないように

梅(花)



寒さに耐えて、
春にさがかけて
咲く

桜



桜の花のように
可愛らしく
育つように

桔梗



ものしずかで
上品な女性に

椿



女性の黒髪を
つややかに

桃(実)



女性を象徴し、
女の子の厄を祓う

苺



栄養豊富。
春を告げる

みかん



宮川温州みかん
発祥の城内の
宮川家のみかん

おくるみ人形



生まれたばかりで
可愛い赤ちゃん

這い人形



這い這いするように
なった親の喜び。
娘の豊かな成長を願う

お手振り人形



「這えば立て、
立てば歩め」の親心

三番叟



祝いの席の
舞を踊る

お多福



福がたくさん
訪れるように

瓢箪



無病息災

宝袋



心が豊かに
なるように

蛤



夫婦仲良く

金魚



ゆるやかに泳ぐ
金魚のように優雅で、
品のある女性に

海老



年老いて、腰が
曲がってもなお元氣。
長寿の象徴

柳川さげもんの つくり手

江崎工房
江崎 静子さん



昭和34年生まれ。平成11年、雛人形や兜などの節句物と盆提灯を扱う江崎工房を設立。提灯の絵師として、また自ら創作した作品の受注販売を行いながら、さげもんや柳川まりの教室も開いている。



江崎工房 さげもんの吊るし方 (写真例)

鳩	まり	お多福	蝉	まり	唐辛子	まり
まり	蝶	猿	まり	梅	まり	鶴
桜	三番叟	まり	お手振り人形	瓢箪	みかん	まり
這い人形	まり	桔梗	まり	桃	まり	這い人形
まり	宝袋	まり	雌鶏	まり	おくるみ人形	雄鶏
海老	鼠	ひよこ	兎	亀	金魚	蛤
まり	まり	まり	まり	まり	まり	まり



古い型紙をベースに、改良を重ねてつくられた江崎さんオリジナルの型紙



江崎さんの作品が掲載された本

柳川に古くから伝わる 美しい伝統文化を守りたい

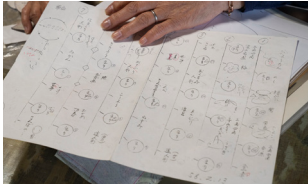
私がさげもんに出会ったのは、昭和59年。娘の初節句に母がつくってくれたのをきっかけに、その歴史や一つひとつのいわれに興味を惹かれて、仲間と一緒に調べ始めました。戦後、柳川でさげもんづくりを継承してきた方にお話を伺ったり、関係者の方を訪ねたり。その原動力は、やっぱり「柳川に古くから伝わる美しい伝統文化を残したい」という思いでした。

最近ではさげもんを飾るご家庭も少なくなりましたが、今もお教室には娘や孫のためにつくってあげたいという方が通ってこられます。若いお母さんが一生懸命つくっている姿を見ると、きつと雛祭りの幸せな原体験があるんだらうと感じます。そんな幸せな記憶とともに、さげもんの風習も世代を超えて繋がっていかばと思いますね。

工夫を重ね、ふっくらと 曲線を活かしたフォルムに

私がさげもんを本格的につくり始めたのは、江崎工房としてお店を出した23年前のこと。それまで、たくさんさんのさげもんを目にして、私なりに「もっとこうしたい」と感じた思いをカタチにしたいと、自分の感性を活かした作品の受注販売を始めることにしました。

例えば、お花は蕾がポツと開いたように。兎やひよこはふっくら愛らしく。他にも羽根のウェーブなど、細かいところまでフォルムにこだわって、袋物の型紙は工夫しながら自分で起こしたものを使っています。フォルムはもちろん、色使い、人形のお顔も、ベースにあるのは「もっと可愛くしたい」という想い。できあがった作品を見た方に「わあー！」って喜んでほしいから、細部まで丁寧に、心を込めてつくっています。



吊るし方を記したメモ



柄の出方を考えて裁断



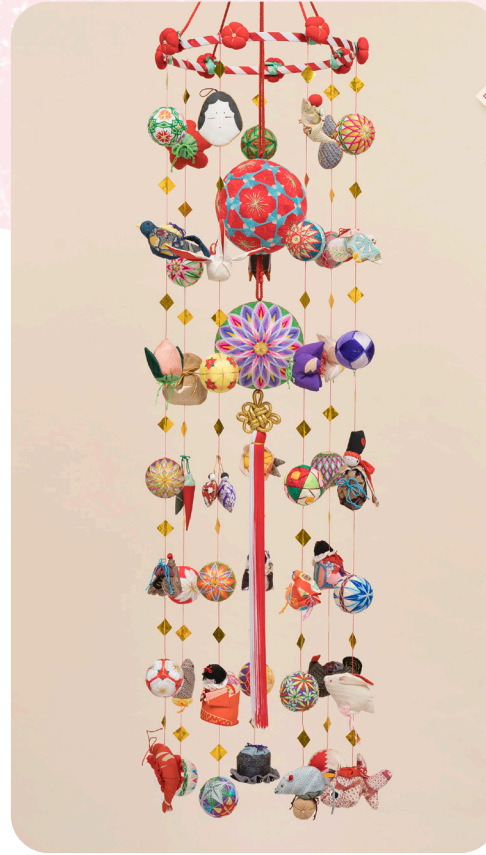
ご近所さんが気軽に立ち寄るお稽古場のような空間で、袋物を縫う古賀さん

柳川さげもんの つくり手

ぎやらりー古雅
古賀 民子さん



昭和20年生まれ。大正5年から続く「古賀神棚店」を営む傍ら「柳川さげもん工房ぎやらりー古雅」を主宰。35年以上にわたり作品づくりを続けながら、教室を開いてさげもんや柳川まりのつくり方も教えている。



昔ながらの型は崩さず、
つくり方は自分流で

私がさげもんづくりを始めたのは、姪の誕生日がきっかけです。自分の娘には手が回らずつくってあげられなかったもので、今度こそはと袋物はご近所さんに、柳川まりは柳河ふれあいセンターでつくり方を教わり、1年がかりで仕上げました。その後、平成7年に柳川市をあげてのさげもんめぐりが始まったのを機に、家に飾るためのさげもんをせっせとつくるようになったんです。

袋物の型紙は、さげもんづくりを教えていた十時先生のものを知人からいただいた使っています。縫い方は経験を重ねながら自分がやりやすいように、きれいに仕上がるように変えたところもありますね。ただ、教わった昔ながらのさげもんの型は今も崩さずにつくっています。

生地を広げ、どう活かすか
頭を巡らせる時間が楽しい

さげもんには28個の袋物と大小23個のまりを吊るします。色が重ならないように全体のバランスを考えるのはもちろん、一つひとつの色や柄使いにもこだわらないと、納得のいく作品はできません。

袋物は、まず28個の袋物に使う生地を決め、型紙を写してすべて裁ち、あとは縫うだけにして進めるのが私流。その中でもっとも頭を巡らせるのが、柄入れです。ストックしている生地を広げて「この柄部分は鶏の羽根に使おう」など、あれこれ考えるのはワクワクします。まりの配色は、テレビや雑誌で洋服の色合いを見て勉強しました。「この配色は映える」と思うと、まりに反映させたり。あとは黙々と手を動かす作業が続きますが、針仕事をしているときは無心になって、つい時間を忘れてしまいます。

ぎやらりー古雅 さげもんの吊るし方 (写真例)

お多福	猿	まり	瓢箪	まり	梅	まり
鶴	まり	蝶	まり	蟬	まり	鳩
まり	桔梗	まり	桜	まり	宝袋	桃
蛤	まり	三番叟	まり	みかん	唐辛子	まり
まり	おくるみ人形	まり	這い人形(女)	這い人形(男)	まり	雌鶏
お手振り人形	まり	兎	雄鶏	まり	ひよこ	まり
まり	鼠	金魚	まり	亀	まり	海老

柳川さげもん 婦人会活動

柳川市地域婦人会
連絡協議会

会長 藤木 利美子さん



昭和20年生まれ。市議会議員として活動した後、現在に至るまで約10年にわたって柳川市婦人会の会長を務めている。会員の活動をサポートし、婦人会全体の活動を盛り上げるために尽力している頼れるリーダー。



一つひとつに込められた
心が集ってさげもんに

つくり手の温もりを感じる
作品を広く届けたい

「泣く子は育つ」を表す蝉、「元気に飛び回るように」と願いを込めた兔。柳川さげもんの一つひとつのいわれには、娘や孫の健やかな成長を願う先人の心がこもっています。さげもんは、そんな優しい気持ちが集まって、この子のために、という愛情から生まれたものだと思うんです。

終戦の年に生まれた私の幼少期はまだ物のない時代で、さげもんといってもずいぶん質素なものでした。家にある端切れでつくり、雛人形の代わりに飾って、ささやかにかつたでしょう。それでも、その子を想ってさげもんをつくり、喜びをみんなで分かち合っていたんですよね。その心は時代が変わっても、大切に受け継がれていってほしいと思いますね。

日本が豊かになるにつれ初節句を盛大に祝う家庭も増えて、娘が生まれた昭和44年には、お雛様がどこにあるかわからないほど部屋中にさげもんを飾っているお宅がたくさんありました。ただ、当時はさげもんを売っているところがなく、欲しくてもなかなか手に入らなかったんですね。そんな中、婦人会の文化祭で展示していたさげもんを分けて欲しいというご要望があり、会員さんが制作した作品の展示販売を通じてたくさんの方にさげもんをお届けすることができるようになりました。

それぞれが意匠を凝らしたり、家にあるもので工夫してつくったり。期間中は会員さんが一針、一針、丁寧に心を込めてつくった作品を求めて、県外から足を運ばれる方も多いです。



婦人会の会員さんが制作された、オリジナリティ溢れる創作さげもん



会館横に佇む婦人会創設者の銅像



愛らしい豆糰も会員さんの作品



柳川市地域婦人会連絡協議会

◆◆◆◆◆
明治35年、女性の地位向上をめざし、全国に先駆けて結成された歴史ある婦人会。会員数は県内随一の約1200名。全国に4カ所しかない婦人会館があり、今も女性たちの学びの場、活動の拠点として活用されている。毎年1月最後の土、日曜日に即売会、さげもんめぐり期間には展示・販売会を開催している。

「柳川伝承さげもん」の規格

古くから伝わる伝承の柳川さげもんを
後世に正しく伝えるために
平成25年、

柳川雑祭り実行委員会によって
制作基準となる

「柳川伝承さげもん規格」が制定されました。

袋物と小さなまりは、

7本の糸に7個ずつ吊るします。

中央の2個の大まりを合わせると、
全部で51個。

この数には

「始終苦勞(四十九)しなくてよいように」

また人生五十年といわれた時代に
一年でも長生きできるようにとの
願いが込められています。



「柳川伝承さげもん」規格

- 竹の輪直径：36cm
- 袋物を繋ぐ糸の長さ：120cm
- 中心の大まり（円周）
上のまり：48cm・下のまり：42cm
※草木染め糸・リリアン糸で巻かれたもの

- ひとさげに入るまりと袋物の数
袋物：28個
まり：21個（円周19～20.5cm）
※まりの中身には糸巻きを使用

- 袋物をさげる順番は、
上から飛ぶもの、地上のもの、
水のもの順にさげる。

- 竹の輪飾り
梅または桃の花：7個

- さげる袋物間の飾り
金紙：2～2.5cm
※金紙は小判／
お金に苦勞ないように

福岡県知事指定特産工芸品

柳川まり

さげもんに吊るされた細工のなかでも、美しい色彩がひときわ目を引く「柳川まり」。柳川地域では初節句だけでなく結婚、新築などの際にも贈られる祝いの品で、代表的な柄である「二つ花」「のし鶴」など、自然をモチーフにした華やかなデザインが特徴です。

